

SDGs達成に向けた取組みチェックリスト

事業者名：株式会社アグリライト研究所

・基本項目は25項目全てに、チャレンジ項目は25項目のうち5項目以上に具合的な取組みを記載してください。
 ・「企業」や「社内」とあるものは、NPO法人や個人事業主等はそれぞれの形態に応じて、読み替えてください。
 ・【予定】の項目は1年以内に【〇年〇月実施】として、具体的な取組みを記載のうえ、提出してください。

(様式第2号)

分類	No.	チェック項目	基本	チャレンジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs (17のゴールと169のターゲット)																		
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
組織・公正な取引	1	【内部管理体制】 ・経営理念及び経営目標を社内で共有、実践している。	●		コトを起こす機会（朝礼、会議、指示）において、当社の事業目的を社員と共有している。									8	9								17	
	2	【法令遵守】 ・法令遵守の考えが社内に浸透し、法令を確実に遵守する体制・仕組みを構築している。	●		民間企業を中心に研究開発する機会が多く、法令遵守については、入社時に就業規則を共有し、プロジェクト実施の都度、web情報によるケーススタディ事例の共有を行っている。																	16		
	3	【公正な競争】 ・不正競争行為に関与しない方針を掲げ、社員に周知している。	●		研究資料仕入れ時には複数見積比較、販売時においては根拠説明ができる価格設定を行っている。											10							16	
	4	【組織体制】 ・企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対応する担当や専門部署などの体制を整備している。	●		山口大学発ベンチャー企業であり、現在も各大学や高校と連携体制により進めている側面から、コトを起こす機会（会議、指示）に共有確認している。																	16		
	5	【知的財産保護】 ・知的財産の保護に取り組んでいる。	●		研究開発を行うことが多いので、必要に応じてステークホルダーと秘密保持契約と締結、研究の進展により都度知財化の検討を進めている。また山口大学産学連携部門との定期動向情報共有を行っている。									8.2 8.3	9								16	
	6	【個人情報保護】 ・個人情報を適切に管理している。	●		管理者のみが扱う一つのサーバーと定期的な一つの媒体へバックアップを行っている。																		16	
	7	【ステークホルダーとの対話】 ・ステークホルダー（※）との対話により、自社の活動がステークホルダーに及ぼす影響を把握し、適切に対応している。（※利害関係者：消費者、投資家等及び社会全体）	●		山口大学発ベンチャー企業であり、現在も各大学や高校と連携体制により進めている側面から、コトを起こす機会（会議、指示）に共有確認している。 山口大学産学連携部門などと定期的な情報共有機会により、対応手法や動向の共有を行っている。																	16	17	
	8	【サプライチェーン管理】 ・サプライヤー、事業パートナー等と、人権侵害の防止、生物多様性や生態系への悪影響の防止、倫理面での適切な対応（ハラスメント・汚職・贈収賄防止）について認識を共有し、共に取り組んでいる。	●								5			8		10		12	13	14	15	16	17	
	9	【災害や事故への備え】 ・地震や水害などの自然災害や事故などに備え事業継続計画（BCP）を策定し、訓練や見直しを行っている。	●											9		11		13.1					16	17
	10	【事業承継】 ・事業承継に関する検討・対策を行っている	●											8	9									17
	11	【公正な貿易】 ・フェアトレード商品の調達に取り組んでいる。	●			1	2			5			8				12	13	14	15	16	17		
労働・人権	12	【差別の禁止】 ・性別・年齢・障がい・国籍・出自などによる差別や各種ハラスメントを防ぐ体制が整備され、社内で差別や人権侵害がないことを確認している。	●		採用指針において差別事項はない。また、週複数回の全員、各人の会話コミュニケーション機会を設けており、現状確認を進めている。				4.3 4.4 4.5	5.1 5.2 5.5			8.5 8.7 8.8		10.2 10.3							16.1 16.2 16.7		
	13	【労働安全衛生】 ・業務中の事故等を防ぐため、安全で衛生的な労働環境の整備に取り組んでいる。	●		高所作業を伴う場合など、ケースによって二人以上の人員体制で進めている。栽培室内においては、例えば二酸化炭素が高濃度環境となつた場合の発報装置を備えている。		3						8.8											
	14	【公正な待遇】 ・雇用形態に関わらず、同一労働同一賃金等の原則に沿って対応している。	●		正社員とパートタイマーの待遇は、時給換算を行い、同一労働同一賃金を原則として、各人の能力に応じて決定している。					5.5			8.5		10.2 10.3									
	15	【ワークライフバランス】 ・働き方の見直し等により、過度な長時間労働を防止し、家庭と仕事の両立を図るためにワークライフバランスを推進している。	●		テレワーク環境の整備と36協定により、植物の管理に要する定期的な作業時間・業務集中を行う時間について、各自裁量により業務が進められる体制としている。		3		5.5			8.5 8.8		10.3										
	16	【人材育成】 ・適切な能力開発、教育訓練の機会を従業員に提供している。	●		業務上必要な技量や資格の取得に向けて、対応時間配慮や費用負担を行っている。			4	5.5			8	9											
	17	【健康経営】 ・従業員が心身ともに健康を維持できるよう対策を講じ、生産性の向上等に取り組んでいる。	●		研究実施においてストレス負荷がかかるが、数値取得モニタリング装置の導入など並行してデータ取得が可能な方法を取り入れ軽減につなげている。また、定期健康診断、歯科検診など、年齢や心身状態に応じて費用負担を行っている。		3					8										17		
	18	【ダイバーシティ経営】 ・多様な人材（女性、外国人、障がい者、高齢者等）が、十分に活躍できる環境の整備に取り組んでいる。	●		女性・障がい者でも十分活躍できている経験がある。論文調査、統計解析といったパソコン作業による重要な作業もある。			4.4	5.1 5.5			8.5		10.2 10.3								16.7		
	19	【新しい生活様式への対応】 ・新型コロナウイルスをはじめとする感染症対策としても有効なテレワークや時差出勤、ウェブ会議等を導入している。	●		同じ空間に複数人が滞在しない指針から、テレワーク環境構築を進めている。現在の社内意思疎通はオンライン上（slackを中心に運用）で行うことを標準としている。		3					8	9.1		11	12								
	20	【デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進】 ・ICTやAIを活用したデジタル化やオンライン化等のDXの推進により業務の効率化やビジネスモデルの変革に取り組んでいる。	●		当社ビジネスモデルの一つである。2023年度は「令和5年度 DX実証事業委託業務（一般枠）」『ドローンや衛星データを活用したサツマイモの高品質化・高収量化・管理省力化』を進めている。			3	4			8	9.1		11	12								
	21	【プライト企業】 ・プライト企業に認定されている。	●			3	4					8	9		12									

SDGs達成に向けた取組みチェックリスト

事業者名：株式会社アグリライト研究所

・基本項目は25項目全てに、チャレンジ項目は25項目のうち5項目以上に具合的な取組みを記載してください。
 ・「企業」や「社内」とあるものは、NPO法人や個人事業主等はそれぞれの形態に応じて、読み替えてください。
 ・【予定】の項目は1年以内に【〇年〇月実施】として、具体的な取組みを記載のうえ、提出してください。

(様式第2号)

分類	No.	チェック項目	基本	チャレンジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs (17のゴールと169のターゲット)																		
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
	22	【環境汚染予防】 ・廃棄物や有害化学物質の適切な管理、及び処理に取り組んでいる。	●		環境汚染を発生させないように、法律・規則等に沿った適切な処理を行っている。			3.9			6.3						11.6	12.4		14.1	15.1			
	23	【エネルギー】 ・電力やガソリンなど、自社のエネルギー使用量を把握し、その削減に取り組んでいる。	●		研究や栽培試験に使用する電力使用量を事前に計算把握し、社内コスト感の共有、また顧客依頼試験見積への根拠としている。							7.3							13					
	24	【温暖化対策】 ・自社の温室効果ガスの排出量を把握し、排出の抑制に取り組んでいる。	●		テレワークを推進し無用なオフィス訪問機会を減らし、自宅からオフィスまでの距離から通勤利用の各人自車排出ガス量とオフィス訪問削減日数により、自社の温室効果ガス排出量の把握を行っている。		2.4					7.2 7.3 7.a					12.4	13	14	15				
	25	【生物多様性】 ・自社活動が環境（生物多様性や生態系等）に悪影響を及ぼさないよう配慮している。	●		排水など各自治体に定める基準内で管理を行っている。						6.6								14	15				
	26	【効率的な資源利用】 ・ごみを減らし、資源を有効的に繰り返し使うため、発生抑制（リユース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル）に取り組んでいる。	●		自社内やステークホルダー向けの無用な紙印刷機会を減らし電子ファイルの共有機会を増やしている。								9.4			12.2 12.4 12.5		14.1	15					
	27	【水の管理】 ・熊本の水資源の質と量の保全に取り組んでいる。	●		社内手洗いや資材洗浄時において、節水意識付けを行い、水資源の確保に取り組んでいる。		2.4				6.1 6.3 6.4 6.6 6.b					11.5			14.1 14.2 14.3	15		17		
	28	【環境に配慮した製品等】 ・環境に配慮した製品の購入や製品の開発・製造に取り組んでいる（グリーン購入、リサイクル製品認証等）。	●		資材購入時に比較対象検討機会時は、リサイクル製品認証などが入った商品を選択するようにしている。								9.4			12.4 12.5	13	14	15					
	29	【食品ロスの削減】 食品ロスの削減に取り組んでいる。	●			1	2				6.4							12.3		14	15		17	
	30	【緑の保全管理】 ・壁面緑化や植栽など緑の創出と保全、管理に取り組んでいる。	●														11.6 11.7		13.1 13.3		15		17	
	31	【エネルギー効率の見直し・再生可能エネルギーの利用】 ・高効率機器の導入等によるエネルギー使用率の改善または再生可能エネルギーの利用や供給に取り組んでいる。	●								7.1 7.2 7.3 7.a		9.4		11.5			13.1 13.3						
	32	【森林資源の循環利用に向けた取組み】 ・“伐って、使って、植えて、育てる”の持続的な森林利用への取組みを推進している。	●								6			9.4		11.3 11.4 11.5	12.2	13		15				
	33	【植林等の取組み】 ・植林等の森林整備活動に取り組んでいる。	●								6.1 6.3 6.6						11.3 11.4 11.5	12.2	13		15			
	34	【海洋ごみ】 ・環境中で分解しにくいプラスチックの使用削減等、海洋ごみ、海洋汚染の防止削減に貢献している。	●		熊本県立芦北高等学校と2018年から進めているアマモ場造成活動において、海を汚染しない資材・手法を取り入れている。											12.2 12.5		14						
	35	【環境に配慮した交通手段】 ・電車やバスなどの公共交通機関の利用や、電気自動車や水素自動車などの環境にやさしい自動車の使用を促進している。	●										9.4		11.2		13.1 13.3							
	36	【2050年CO2排出量実質ゼロへの取組み】 ・2050年CO2排出実質ゼロを目指し、計画的にCO2削減に取り組んでいる。	●								7.1 7.2 7.3 7.a		9.4		11.6 11.a	12.8	13						17.17	

SDGs達成に向けた取組みチェックリスト

事業者名：株式会社アグリライト研究所

・基本項目は25項目全てに、チャレンジ項目は25項目のうち5項目以上に具合的な取組みを記載してください。
 ・「企業」や「社内」とあるものは、NPO法人や個人事業主等はそれぞれの形態に応じて、読み替えてください。
 ・【予定】の項目は1年以内に【〇年〇月実施】として、具体的な取組みを記載のうえ、提出してください。

(様式第2号)

分類	No.	チェック項目	基本	チャレンジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs (17のゴールと169のターゲット)																	
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
製品・サービス	37	【製品・サービスの安全性と品質】 ・製品・サービスの安全性や品質を確保する仕組みを構築している。	●		依頼内容に応じて、食品衛生基準、品質基準（ISOやPSE）内容も、ステークホルダーと指針共有しながら進めている。			3.9						9			12.4						
	38	【ユニバーサルデザイン】 ・障がい者、高齢者に特定せず、誰もが利用しやすいサービス提供や環境整備を行っている。	●		ホームページや資料作成において、2022年以降、ユニバーサルデザインや視覚障がいに配慮して進めている。									9.1	10	11.7						17	
	39	【地域資源】 ・地産地消を推進し、熊本県産の原材料を優先的に使用している。		●				2.3 2.4					7.3	8	9		11.a	12.3	13	14	15		17
	40	【木質化の取組み】 ・自社の執務室等の天井や床、壁等の内装や外壁等に木材を使用し、木質化を推進している。		●								7						12.2	13.1		15		
	41	【社会課題解決】 ・社会課題を解決するための製品・サービスの開発・展開に取り組んでいる。		●	当社研究開発において技術構築レベルではなく、当社顧客が事業（商品）として展開することを目標に進めている。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
	42	【攻めの農林水産業】 ・地域における産学官連携等による新たな品種開発を促進するなど、地域レベルで農林水産業の生産能力向上に努めている。		●	研究開発対象について小単位（一民間企業）から地域利用、県単位利用とスケールアップできる段階を計画し研究開発を進めている。例えば、農作物収穫量の予測技術により、肥料投入量の削減・高品質化（小麦であれば子実タンパク質含有量向上）・市場における納入量調整などに役立っている。		2.3 2.4							8.2	9.2 9.4		11.a	12.2		14	15	17	
持続可能な社会・地方創生	43	【地域への参画】 ・自治活動や福祉活動、防災活動や寄付、ボランティアなど社会貢献活動に積極的に取り組んでいる。	●		本社住所のある水俣市が企画するイベント「ジュニアサイエンスセミナー」の講師役などにおいて協力している。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
	44	【防災、減災、レジリエンス（自助）】 ・過去の地震や水害などの災害を教訓に、事業への被害を防止・軽減するため、ハザードマップを確認し、避難行動計画や事前防災対策を進めている。	●		本社住所のある「水俣市企業化支援センター」指針に基づき社内共有している（ハザードマップの共有）。研究実施時は、ポータブル電源使用ができるなど停電などの緊急時に備えている。				4							11.5		13.1			16		
	45	【防災、減災、レジリエンス（共助）】 ・地域防災の担い手としての認識を持ち、防災士、水防団員、救助救急等の必要な技能を持つ社員を育成したり、地域消防団の活動に参加している。		●		1.5		3	4							10.2	11.5		13.1			16	17
	46	【防災関連商品の開発・販売】 ・防災関連商品の開発・販売を促進している。		●											9		11	12	13.1				
	47	【SDGsの普及啓発】 ・環境問題や人権問題をはじめとした社会課題の解決に向け、SDGsの普及啓発や教育機会の提供を行っている。		●	ブルーカーボン「アマモ」を通して、①2018年より熊本県立芦北高等学校向け（継続中）、②「国立 阿蘇青少年交流の家」や、日本財団「海と日本プロジェクト in くまもと実行委員会」主催イベントにおける講師役（2021年度）、③山口大学SDGs報告書への掲載（2022年度）、など啓発機会がある。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
	48	【インターンシップ等の受け入れ】 ・職場体験、インターンシップの受け入れ、職場関連授業の実施など、地域の児童や学生に対し、職業の学びの場を提供している。		●	2018年より共同研究体制である熊本県立芦北高等学校（林業科 アマモ班）生徒や熊本高専生徒による当社栽培設備見学、植物栽培環境や植物自体の測定数値化体験を行っている。				4					8.6		10.2					17		
	49	【若者の地元定着等】 ・若者の県内就職を促進する取組みを行っている。		●						4.4					8.5 8.6								17
	50	【農林水産業の担い手確保】 ・子どもに対する農林水産業教育を行うなど、地域における農林水産業従事者の確保に取り組んでいる。		●	2018年より共同研究体制である熊本県立芦北高等学校（林業科 アマモ班）生徒を中心、植物栽培環境や植物自体の測定数値化への機材提供や講義を行っている。		2		4.3 4.4 4.5					8.6		10.2		12	13	14	15	17	

・基本項目は25項目全てに、チャレンジ項目は25項目のうち5項目以上に具合的な取組みを記載してください。
 ・「企業」や「社内」とあるものは、NPO法人や個人事業主等はそれぞれの形態に応じて、読み替えてください。
 ・【予定】の項目は1年以内に【〇年〇月実施】として、具体的な取組みを記載のうえ、提出してください。